

【寄せ植えお手入れ講座～長く楽しむ管理のコツ】

令和6年9月21日（土）

石川花の会 島村敏子

- ◆咲き終わった花柄や枯れた葉、弱った葉などを こまめに摘み取ること。
それをしないでおくと一時的にしか楽しめず、更に病気が出たりして株が衰弱していきます。
- ◆全体のバランスを見つつ茎が伸びすぎた部分はカットし整えます。
生育期には切った下から新たに茎が伸び蕾を付け開花する場合があります。
- ◆過湿が苦手な植物と水を好む植物 また 半日陰を好む植物と日当たりを好む植物をなるべく組み合わせない方が管理しやすく長く楽しめます。
- ◆水やりに関しては 毎日こまめにやると失敗します。
お天気が続くときもあれば雨が続きときもあります。
寄せ植えが置かれている場所にもよります。
土の表面が乾いてきた時プランターや鉢植えの底から水が出るほどたっぷり
と与えます。 鉢の中の空気も入れ替わりますし少し水が欲しくなってきた
根も水を求めて伸びます。
- ◆肥料に関しては 液体肥料の場合は希釈倍率より薄めて1週間に一度くらい
の間隔又は、希釈倍率の場合は2週間に一度くらいが良いでしょう。
プラス 緩効性の粒肥料は置き肥として1.5ヶ月～2ヶ月に1回与えると良い
でしょう。
- ◆害虫に関しては アブラムシ、ハダニ、コナカイガラムシなどが付き易いので
粒状の浸透移行性殺虫剤を1ヶ月に1回ほど撒いておくと予防できます。
- ◆病気に関しては うどんこ病や灰色カビ病の心配がありますが
病気が出てから殺菌剤を散布しても治らないので病気が出ないように予防が
肝心です。
置き場所に工夫します。風通しが良い所、雨が長く続くときは一時的に雨が
当たらない所に置くなどします。

◆植え替えのタイミング

ちょうどこの時期 秋のお彼岸過ぎ位が一番良い時期なのですが今年はまだ日中が 30℃を超えています。

もう少し遅らせ、日中の温度が 25℃を下回ったら大丈夫です。

5 月中旬過ぎに寄せ植えをして管理さえよければ今頃まで楽しめる場合がありますが、今年の夏のように連日の猛暑の中、植物も人間と同じく熱中症になり弱っていると思います。

◆植え替えの仕方

寄せ植えの一部分が何とか夏を乗り切りこの秋も楽しめる場合は傷んだ部分を植え替えます。

抜き取りたい痛んだ部分の株の周りにシャベルを入れ絡まっている根を取り出します。絡まりが強く抜けない場合は、多少鋏で根を切っても大丈夫です。

長く植えたままの寄せ植えはこの際、新しい土で作り直すのも植物にとっては良いです。

用土は培養土でもよいですが 植える植物により赤玉土小粒・腐葉土・山砂の割合を考えて植えるのもよいでしょう。

◆寄せ植えのデザインを考える際

背が高くなるもの、横に広がるもの、つる性のものなど それぞれの特徴を生かすと寄せ植えの幅が広がり楽しめます。

かなりボリュームの出るもの、生育が旺盛で根が張るものは他の植物の生育を妨げることもなりかねないので、それぞれの特徴を考えることも大切です。

◆秋のおすすめ→落ち着いた色合いが良いのでは

一年草：ヒャクニチソウ、プリムラ、スイートアリッサム

多年草：リンドウ、ナデシコ、宿根アスター、オキザリス

アクセントに薬物：シロタエ、アサギリソウ、アイビー、ハツユキカズラ、